

国語

時間=70分

(解答：30 ページ)

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

オノマトペは最近注目されている言葉ですが、その特殊性がよく話題となります。一般的な言葉とどこが違うのでしょうか。

一般的な言葉は、音と意味に必然的な対応関係はありません。ネコと言われたら、ニャアと鳴く、自由にマイペースな動物をイメージしますが、ネコという音とネコという動物の対応関係はたまたまであって、日本語を話す人が共通して理解できるのであれば、ネコという名前のかわりにイヌという名前でもよいわけです。

ところが、オノマトペの場合にはそうはいきません。小さい子どもが「ニャアニャアがいる」と言えば、それはネコを指し、「ワンワンがいる」と言えば、それはイヌを指し、それが逆になることはありません。なぜなら、「ニャアニャア」「ワンワン」という名前は動物の鳴き声と結びついているからです。音と意味のあいだに必然的な結びつきがある。それが擬音語の特徴です。

では、擬態語ではどうでしょうか。擬音語ほどは音と意味のあいだに必然的な結びつきがあるわけではありませんが、それでもイメージは明確に結びついています。

たとえば、「A B C」を比較してみましよう。上から降ってきたきょうなものとして何が考えられますか。「A B C」は雪、「B B C」は雨、「C C」はあられではないでしょうか。

- ・雪が A 降ってきた。
- ・雨が B 降ってきた。
- ・あられが C 降ってきた。

雪は「風花」と呼ばれるように、舞い落ちるイメージがあります。ほかに「A B」と舞い落ちてきそうなのは桜の花びらでしょうか。雨は降りはじめは「B C」と雨粒が落ちてきて、激しくなると「C C」となります。あられは小さい粒なら「B C」かもしれませんが、大きい粒は「C C」がふさわしいでしょう。もし空からゴバンが降ってきたとしても(残念ながら見たことはありませんが)「C C」となりそうです。

このように、粒さえ感じられないものは「A B」「A B」「A B」「A B」となりそうです。

皮膚の痛みを表す「ひりひり」「びりびり」「びりびり」はどうでしょうか。もともと「B C」で細かな感覚は「ひりひり」、ネコの爪のような鋭いもので引っかかれると「びりびり」でしょうか。もともと奥まで届く激しい痛みは「ひりびり」で、スタンガンなどでカントテンしたときのしびれるような痛みです。「ひりひり」「びりびり」「びりびり」も痛みの激しさと異なり、この順で痛みが増していきます。

(中略)

これらは八行の子音の一例ですが、D の八行であれば程度や大きさが小さく、E の八行であれば中間で、F の八行であれば大きいことがわかります。音と意味に一定の対応関係があるわけです。これがオノマトペの特殊性であり、専門的には音象徴(sound symbolism)と呼ばれます。

音と意味のあいだに結びつきがあるという音象徴性は、オノマトペのイメージ喚起力と結びついています。漢字も文字と意味のあいだに結びつきがあり、見て意味がイメージできるという表意性(専門的には表語性といいますが)がありますが、オノマトペにもそうした性格があります。

オノマトペは擬音語・擬態語の言い換えとして使われていますが、じつはそれほど単純なものではありません。浅野編(一九七八)に収められている金田一春彦の解説「擬音語・擬態語概説」によれば、オノマトペは、「擬音語」「擬声語」「擬態語」「擬容語」「擬情語」の五つに分けられます。

たしかに「擬音語」以外に「擬声語」という言い方もあります。「擬音語」は虫の羽音の「ブーン」や爆竹の破裂する「バン」のような自然界の音を指し、「擬声語」は赤ちゃんの声の「パプー」や鶏の鳴き声の「コケコッコー」などの人や動物の声を指します。声も音の一部ですので、広い意味での「擬音語」は「擬声語」も含むのですが、「擬音語」を狭く捉え、「擬声語」と区別する方法もあるわけです。

一方、広い意味での「擬態語」は三分類されています。狭い意味での「擬態語」は「びかびか」「めらめら」のような自

然界のもの様子、「擬容語」は「ふらふら」「ぐんぐん」などの生き物の様子、「擬情語」は「いらいら」「うっとり」など人の心理や感覚などの内面を描写するものです。
もちろん、この五つの分類はベンギ上のもので、複数の分類にまたがるものも珍しくありませんが、知っておいて損のない分類です。

オノマトベがとくに優れているのは状況のイメージ喚起力です。オノマトベは種類が豊富なので、どこで何が起きていたのか、あるいは、誰がどこで何をしていたのかといった状況がある程度特定できることが少なくありません。そのため、現場の状況を感覚的に描く描写に向いた表現であるといえます。

「ピンポーン」。この言葉を見て、何をイメージするでしょうか。「誰か来たのかな？」と思った人は、玄関のインターホンを押した音をイメージしたのでしょうかし、「正解！」と思った人は、テレビのクイズ番組をイメージしたのかもしれない。いずれにしても、「ピンポーン」一つで、その場の状況が鮮明に目に浮かびます。

次のオノマトベを見て何が思い浮かびますか。ヒントは、いずれも夏に関係あるものです。

- ・ ヒュルヒュルヒュル、ドーン、パラパラパラ
- ・ ドポーン、バチャバチャ、スーイスイ

すぐにわかったことでしょうか。「ヒュルヒュルヒュル」「ドーン」「パラパラパラ」は打ち上げ花火、「ドポーン」「バチャバチャ」「スーイスイ」はプールでの水泳です。

④このようなイメージ喚起力は、幼い子どもが言葉を覚えるのに役立ちます。オノマトベの音象徴性を利用すれば、音を手がかりにして、その言葉が何を指しているのかを探しやすくなるからです。^(注1) (Imai & Kita 2014)。そのため、まわりにいる大人は幼い子どもにもオノマトベで話しかける傾向があります。結果として幼い子どものオノマトベ習得が進んでいくわけです。

(石黒圭『コミュ力は「副詞」で決まる』による。一部改変。本文は設問の都合上、小見出しや文章の一部を省略している。)

(注) 1 (Imai & Kita 2014)——本文の筆者が参考にした文献の情報を示す注記。

問1 波線部 a ~ d のカタカナの部分、漢字で記しなさい。

問2 傍線部①「ネコ」という名前のかわりにイヌという名前でもよいわけですか。それはなぜですか。

その理由として、最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ネコと言われたら、自由でマイペースな動物をイメージするから。
- イ ニヤアと鳴くネコという名のイヌが、存在する可能性があるから。
- ウ 日本語を話す人々は、ニヤアと鳴く声を共通して理解できるから。
- エ ネコという音とネコという動物の名前には、対応関係がないから。
- オ ネコ同様に、イヌという動物も自由でマイペースに行動するから。

問3 傍線部②「音と意味のあいだに必然的な結びつきがある。」とありますが、このことを文中ではどのような言葉で表現していますか。漢字三文字で抜き出しなさい。

問4 空欄 A・B・C に入る最も適当なものを、次のア～カのうちから、それぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア ばらばら
- イ はたはた
- ウ はらはら
- エ ばたばた
- オ ばらばら
- カ ばりばり

問5 空欄D・E・Fに入る最も適当なものを、次のア～カのうちから、それぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 摩擦音

イ 濁音

ウ 母音

エ 半濁音

オ 破壊音

カ 清音

問6 傍線部③「オノマトベにもそうした性格があります。」について、オノマトベの性格の説明に当てはまるものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 音と意味のあいだを一定の関係にはしない力がある。

イ 文字と意味との表意性を対立させる力を持っている。

ウ 音と文字が持っている特殊性を結びつける力がある。

エ 漢字と意味とのあいだをしつかりとつなぐ力がある。

オ イメージを呼び起こすことができる力を持っている。

問7 傍線部④「このようなイメージ喚起力」とは、どのような力のことですか。三十字以内で説明しなさい。

ただし、句読点を含みません。

問8 本文の内容に合致しないものを、次のア～カのうちから二つ選び、記号で答えなさい。

ア 小さい子どもが、「ニャアニャアがいる」と言えば「ニャアニャア」はネコを指し、「ワンワンがいる」と言えば「ワンワン」はイヌを指すのであり、「ニャアニャア」および「ワンワン」は、ともに動物の鳴き声と結びついたオノマトベである。

イ 擬音語・擬態語の言い換えとして使われているオノマトベは、さらに複雑に分類されることがあり、例えば、金田一春彦の解説では、「擬音語」「擬声語」「擬態語」「擬容語」「擬情語」のように分けているが、この分類は知っておいて損はない。

ウ 自然界の音を指す「擬音語」以外に、人や動物の声を指す「擬声語」という言い方があるが、そもそも、音と声は個々に独立した異なる性質のもので、「擬音語」と「擬声語」は広い意味でも狭い意味でも完全に区別して考える必要がある。

エ オノマトベは現場の状況を実感的に描く描写に向けた表現であると考えられているが、それは、種類がたくさんあるため、どこで何が起きていたのか、誰がどこで何をしていたのかといった状況を、ある程度特定することができるからである。

オ 「ピンポン」というオノマトベから人が何をイメージするのかを考えてみると、例えば、「誰か来たのかな?」と思った人は玄関のインターホンを押した音を、「正解!」と思った人はテレビのクイズ番組を、それぞれイメージしたと考えられる。

カ 大人は、オノマトベで小さい子どもたちに話しかける傾向があるため、その結果として、小さい子どもたちのオノマトベの習得が進み、それによってオノマトベの種類が豊富になったり、オノマトベの特殊性に注目が集まったりするようになった。

「二」 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

土間(注1)には数人の百姓たちが、侍が姿を見せるのを待っていた。彼らはそれぞれ谷戸(やと)の三つの村の代表者たちだったが、時折、咳(せき)きこんだり鼻をすすりあげながら辛抱(しんぱう)づよくうずくまっていた。

① やがて奥の間から与蔵を従えた叔父と侍とがあらわれる気配がすると、咳や鼻をすする音がいつせいにやんだ。

囲炉裏の横座に侍は坐(ま)ちて百姓たちを眺めた。百姓たちの顔は彼と同じように眼がくぼみ、頬骨が飛び出し土の臭いがしみこんでいた。長い歳月の間、風雪に耐え、粗食に耐え、労働に耐えてきた顔だった。忍耐すること諦めることに馴れきった顔だった。彼はこの百姓たちから、大きな海を渡り、夢にも見たことのないノブスバニヤに連れていく従者を選ばねばならなかった。城中からの御指図では使者衆はそれぞれ四人まで供を連れることが許されたからである。

「悦(よろこ)んでもらいたいことがあるぞ」

侍が話を始める前に、叔父が満足げに口を開いた。

「雄勝(おが)の大船のこと、皆もうすすす聞いてはおろう。あの太船、殿の御指図で遠い南蛮(なんばん)の国に赴くが」

それから叔父は得意気に壻(あ)をふりかえって、

③ 「その船に六右衛門が乗ることになった。殿の御使者衆としてな」

だが百姓たちは感動も驚きもない鈍い眼で二人を見あげていた。それはまるで人間たちのやることを無関心に眺めている老犬のようだった。

「六右衛門の供として」

と叔父は、百姓とは別格に土間ではなく囲炉裏部屋(いろうりべ)の隅に坐るのを許されている与蔵を顎(あご)でさして、

「この与蔵には既に話しておいた。あと三人の者をそれぞれ村から一名ずつ連れて参ることにするが」

④ と、うずくまった百姓たちが一瞬、硬直したように顔を強張(こば)らせた。それは今日だけのことではなかった。毎年、公役のため誰かを差し出さねばならぬ時にも、ここに集まった百姓たちは侍の読みあげる名に一瞬、体をかたくするのだった。

「長旅ゆえ、女房、子供のある者は迷惑であろう。そのどころもよう考えてな、お前たちで選んでくれい」

叔父のそばで侍は三つの村から選ばれる三人の男たちの辛さを思った。自分と同じようにこの連中も蝸牛(かたがひ)とその殻(か)のように谷戸と固く結びついている。だが彼らは雪まじりの風に顔を伏せて耐えるように、やはりこの御指図を諦めながら受けるだろう。

百姓たちは籠(かご)のなかの鴨(か)の群れのように顔と顔とを突きあわせて小声で相談しあっていた。抑えつけた低い声の話しいが長く続き、その間、侍は叔父と黙ったまま彼らを見つめていた。谷戸の三つの村からそれぞれ女房、子供のない清八、一助、大助という三人の若者が選ばれた。叔父はうんとうなずいて、

「だがな、六右衛門が戻るまではこの三名の身寄りわしらがしつかりと見るであろうぞ」

百姓たちはむしろ自分が名指しされなかったことにはっとしたようだった。彼らはふたたび鼻をすすり、咳きこみ、それぞれ頭をさげると土間から出ていった。野良着(のらぎ)にしみついた土と汗とのまじったその臭いがいつまでもそこに残った。

「やれやれ」

と叔父はわざと陽気を装いながら拳(こぶし)で肩を叩いた。

「こういうことを申し渡しするのは辛い。だがこれは戦と同じだぞ。黒川の土地が戻るか戻らぬかが掛(か)っておる。りくも今日からは旅支度(りょしど)と荷づくりとで大変であろう。使者衆はいつ殿のお城に集まるのだ」

「十日のちにごさいます。さまざまの御指図を伺います」

「なあ、六」叔父は急にしんみりとして、「旅のあいだ体をいとうてくれよ」

うつむいていたが、侍はやはり少し恨めしかった。叔父の念頭には失った先祖伝来の土地しかない。生きている間にその土地がふたたび手に戻ることだけが叔父の今の生き甲斐(がい)なのだ。だが侍自身はさっきの百姓たちと同じように、今更(いま)、あたらしい場所を得て、そこに移りすむ気持ちはあまりなかった。この谷戸でこのまま生き、このまま死にたかった。

「馬を見て参ります」

侍は与蔵に眼くはせをして土間におり、外に出た。馬小屋では主人の近づく気配を感じた馬が足を踏みならす音が聞えた。湿った藁(わら)の臭いを嗅ぎながら、侍は柵(さく)に靠(た)れ、この小者頭(せうしやうがしら)をふりかえった。

「苦勞(くろう)だかの」と侍はしんみりと与蔵に言った。「供をしてくれるか」

一本の藁屑(くわ)を指先でいじりながら与蔵はゆつくりとうなずいた。侍より三つ年上のこの与蔵は既に髪に白いものがまじりはじめていたが、その髪を見ていると、少年の頃の侍に馬の扱い方や兎(うさぎ)の罾(わな)のかけかたを教えたことが不意に思い出された。そういえば、戦の折の銃の手入れの仕方や水泳ぎを手ほどきしてくれたのもこの下男である。他の百姓と同じように土の臭いのするくぼんだ眼とどった頬骨とを持っている与蔵は、幼い時、共に草を刈ったり、冬に備えて林の木々を切る時も、いつも侍にあれこれと教えてくれたのだ。

「なぜわしが使者衆に選ばれたのか、まだわからぬ」
侍は顔を出した馬の鼻をなでながら呟いた。それは与蔵よりも自分に言いかけられるような呟きだった。

⑥ 「どのような難儀な旅なのか、どのような国に参るのかもわからぬ。それゆえ……お前が供をしてくれれば心強いのだ」
侍は自分の意気地ない言葉を恥じたように笑った。与蔵はこみあげる感情を休めて眼を横にそらし、馬小屋に入って黙ったままよごれた藁を隅に集め、乾いた藁を床に敷き、旅への不安や怖れをまぎらすかのように体を動かしていた。

(遠藤周作『侍』による。一部改変)

(注) 1 土間——昔の日本家屋にみられ、家の入口に設けられた土足で出入りできる空間。種々に使用された。

2 ノベスパニヤ——現在のメキシコ。当時はスペイン領。

3 南蛮の国——スペインやポルトガル等のヨーロッパや東南アジアの国々のこと。

4 りく——六右衛門の妻。

5 小者頭——雑役に従事する下男(使用人)のトップ。

問1 波線部 a・d・e の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。

問2 波線部 b・c は本文中でどのようなたとえとして用いられていますか。最も適当なものを、次の各群の ア～オのうちから、それぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

b 蝸牛とその殻

ア 内に閉じこもっていることのとえ
イ 弱そうに見えるが強いことのとえ
ウ 動かずじっとしていることのとえ
エ 切っても切り離せないことのとえ
オ 付かず離れず仲が良いことのとえ

c 籠のなかの鶉の群れ

ア 一か所にひしめきあっている様子のとえ
イ 閉じ込められて逃げられない様子のとえ
ウ うずくまってふるえている様子のとえ
エ 不安にかられ集まっている様子のとえ
オ 身を寄せて助け合っている様子のとえ

問3

傍線部①「やがて奥の間から与蔵を従えた叔父と侍とがあらわれる気配がすると、咳や鼻をすする音がいつせいにやんだ。」とありますが、なぜ、「咳や鼻をすする音がいつせいにやんだ」のですか。その理由として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 与蔵を従えている叔父と侍の姿に風格が漂っていたから。
イ 与蔵が悪いことをしたのではないかと不安に思ったから。
ウ いつもとは違う叔父と侍の様子に強い恐怖を感じたから。
エ 村の代表として威儀を正し侍を迎える必要があったから。
オ 今度はどのような指図が申し渡されるのか緊張したから。

問4

傍線部②「風雪に耐え、粗食に耐え、労働に耐えてきた顔だった。」とありますが、この部分は百姓たちのどのような生活を表わしていますか。四十字以内でわかりやすく説明しなさい。ただし、句読点を含みませぬ。

問5 傍線部③「だが百姓たちは感動も驚きもない鈍い眼で二人を見あげていた。それはまるで人間たちのやることを無関心に眺めている老犬のようだった。」とありますが、この部分は叔父の言葉に対する百姓たちの態度(反応)です。百姓たちがこのような態度(反応)に至った根本的要因として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 慢性的な隷属関係
- イ 相対的な主従関係
- ウ 知覚系機能の老化
- エ 叔父と侍への反発
- オ 南蛮の国への憧憬

問6 傍線部④「うずくまった百姓たちが一瞬、硬直したように顔を強張らせた。」とありますが、このときの百姓たちの心境として、最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 残りの三人は公平に決める必要があるだろう。代表者としていつもその責任の重さを感じる。
- イ 残り三人のお供はすでに決まっているかもしれない。自分の名前が読みあげられたらどうしよう。
- ウ 自分には女房や子供がないので迷惑をかける者はいない。勇気を出して南蛮行きを申し出よう。
- エ 自分たち村の代表者だけがなせいやな役目を押し付けられるのだろう。御指図には困ったものだ。
- オ 残りの御使者衆はまだ決まっていないかもしれない。自分の名前が読みあげられたらどうしよう。

問7 傍線部⑤「侍はやはり少し恨めしかった。」とありますが、この時の侍の気持ちとして最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア せまい谷戸を見限り妻子を残して遠い南蛮の国に行くことになり、谷戸の百姓たちと妻子に申し訳ない。
- イ 南蛮に行くことになってまるで夢のようだが、一方で旅への不安や恐怖が日に日に募ってきて苦しい。
- ウ 南蛮行きについて叔父と自分の考えは異なっているが、自分ではどうしようもできず不本意である。
- エ 叔父は自分の南蛮行きを心配してくれているが、殿の命令で決まったことなので素直に悦びたい。
- オ 叔父は自分の弱々しい性格をまったく理解していないので、見栄をはっている自分がなげない。

問8 傍線部⑥「侍は自分の意気地ない言葉を恥じたように笑った。」とありますが、このときの「笑い」の質として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 嘲笑
- イ 苦笑
- ウ 失笑
- エ 微笑
- オ 爆笑

問9 本文の内容に合致しないものを、次のア～カのうちから二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 侍の顔は、百姓たちの顔とほとんど同じようなくぼんだ眼とどがった頬骨の顔であり、土の臭いがしみこんでいる。
- イ 下男との蔵が土間ではなく囲炉裏部屋の隅に坐るのを許されているのは小者頭として仕えているからである。
- ウ 侍の叔父は失ってしまった先祖伝来の土地を生き返るうちに取り戻せたことを大変うれしいと思っている。
- エ 御指図を拒めない百姓たちの思いと御使者衆として大船に乗らざるを得ない侍の思いには通じるものがある。
- オ 清八、一助、大助を選び土間を出ていく場面からはお供を逃れた百姓たちの複雑な様子が伝わってくる。
- カ 侍は南蛮行きへの不安と恐れを抱いており、年上の与蔵と一緒にいくことになって心強いと思っている。

問10 遠藤周作の作品を、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 沈黙
- イ 明暗
- ウ 雪国
- エ 老人と海
- オ 戦争と平和

「三」 次の文章は、少将がある姉妹の姉君に通い始めたが、四、五日姿を見せなかったため、姉君が心細い気持ちで過ごしている場面である。文章を読んで、後の問いに答えなさい。

X 人ごころ秋のしるしのかなしきにかれ行くほどのけしきなりけり
A 「など手習に馴れにし心なるらむ」などやうに、うちなげかれて、やうやう更ふけ行けば、ただ、うたたね(注1)に御帳の前(注1)にうち臥したまひにけり。

少将、内裏うちより出でたまふとおはして、うち叩きたまふに、**人々**おどろきて中の君(注2)起したてまつりて、わが御方へ渡しきこえなどするに、やがて入りたまひて、大将の君の、**B** あながちにいざなひたまひつれば、初瀬(注3)へ参りたりつるほどのことなど語りたまふに、ありつる御手習のあるを見たまひて、

Y 常磐(注4)なる軒のしのぶを知らずしてかれ行く秋のけしきと思ふ
と書き添へて見せたてまつりたまへば、いと恥づかしくて、御顔引き入れたまへるさま、いとらうたく児めきたり。

(『堤中納言物語』「思はぬ方に泊りする少将」による。一部改変)

(注) 1 御帳

平安時代に貴人の座所や寝所として屋内に置かれた調度のこと。正方形の台の上に畳を敷き、四隅に柱を立てて、「帳」と呼ばれる布を垂らしたものが一般。

2 中の君

姉妹のうち妹のこと。

3 大将の君

少将の父。

4 初瀬

長谷寺。現在の奈良県桜井市にある。

問1 二重傍線部 a「れ・b」の文法的意味として正しいものを、次のア～オのうちから一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 受身

イ 自発

ウ 可能

エ 尊敬

オ 完了

問2 傍線部 A「など手習に馴れにし心なるらむ」とは、どのような気持ちですか。次のア～オのうちから一つを選び、記号で答えなさい。

ア 習字に慣れたことで和歌も上手に書けることを喜ばしく思う気持ち。

イ どうしてもっと字に慣れてうまく書けないのかと憤慨する気持ち。

ウ 一人で心細さを和歌に詠むことに慣れたのを嘆かわしく思う気持ち。

エ 一人過ごすときに和歌を詠むことに慣れず気恥ずかしく思う気持ち。

オ 和歌の技巧に慣れてしまつて感動できないことを悔しく思う気持ち。

問3 本文中の「人々」は誰のことですか。次のア～エのうちから一つを選び、記号で答えなさい。

ア 姉妹

イ 女房たち

ウ 世間の人々

エ 大将の君と少将

問4 傍線部B・Cの解釈として、最も適当なものを、次の各群のA～Eのうちから、それぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

B あながちにいざなひたまひつれば

- A 身勝手にお連れになったら
I 穴だらけの山に招待なさると
ウ 気乗りせず同行なさるので
E 強引にお誘いになったので

C らうたく児めきたり

- A 無邪気で子どもっぽく見える
I 苦勞して幼いふりをしている
ウ かわいらしく初々しい様子だ
E 気が弱くあどけない感じだ

問5 波線部「見せたてまつりたまへば」とありますが、誰が誰に見せたのですか。最も適当なものを、次のA～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- A 姉君が女房たちに
I 大将の君が少将に
ウ 少将が姉妹に
E 姉君が少将に
オ 少将が姉君に

問6 少将は、なぜ四、五日姿を見せなかつたのですか。理由を説明しなさい。

問7 文中の和歌X・Yについて、その内容や表現技法に関して説明した文章として正しいものを、次のA～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- A Xの歌は、「かなしき」に、枯れ行く秋が「悲しき」と、相手への「愛しき」^{かな}思いを掛けている。
I Xの歌は、「秋」「かれ行く（枯れ行く）」に、相手が自分に飽きて離れていくことを掛けている。
ウ Yの歌は、「常磐なる軒のしのぶ」が常緑の忍ぶ草を表し、常に相手を思う気持ちを掛けている。
E Yの歌は、常緑の忍ぶ草を知らずに枯れてゆく秋の様子を不思議に思っていることを詠んでいる。
オ Xの歌は枯れ行く秋の様子を悲しく思い、Yの歌はそれに賛同するという内容のやりとりである。

問8 『堤中納言物語』について説明した文章として正しいものを、次のA～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- A 十篇の短編と一つの断章からなる短編物語集であり、短編の多くは作者不明である。
I 在原業平をモデルとする主人公の一代記風の物語で、和歌が重要な役割を担っている。
ウ 五十四帖からなる長編物語で、主人公の誕生前から子や孫の活躍までが描かれている。
E 主人公の姫君が貴公子たちや帝から求婚されながらも、月に帰ってしまう物語である。
オ 琵琶法師によって語られた軍記物語で、「祇園精舎の鐘の声」の書き出しは有名である。